

エコ地域デザイン研究センター

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】（参考）

エコ地域デザイン研究センターは、学内外の研究者や専門家と連携した文理融合の研究活動や、学外組織と連携したプロジェクトによる研究成果や知見の共有などにおいて優れている。それらのプロジェクトは学内外の参加者にとって研究成果や知見を発信共有する場となっており、社会連携・社会貢献の取り組みとしても評価される。同センターの研究員は、学会誌や新聞・雑誌で書評が掲載されたものを含めて数多くの著作を発表し、研究成果を学会等で活発に発信しており評価される。

同センターで所属研究員による科学研究費の申請が活発に行われていることは評価されるが、プロジェクトの中核と位置付けるテリトリー・プロジェクトのための科学研究費の申請が2021年度も採択に至っておらず、研究活動を支える財政的基盤の強化が引き続き懸案となっており、懸案の解決に努めることが望まれる。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

総評にある、学内外の研究者や専門家と連携した文理融合の研究活動や、学外組織と連携したプロジェクトによる研究成果や知見の共有などを特徴とする当研究センターでは、2022年度においてもこれまでと同様に図書刊行、論文発表、各種講演会の実施などについて、COVID-19の状況変化を捉えつつ、可能なものは進め、対面型のイベントなどについては少しずつ感染拡大前の状況を取り戻すべく、再起動のための準備を進めた。また中核をなすテリトリー・プロジェクトについて「テリトリー」といった名称がやや分かりにくいとの指摘に対し、年度末報告会のテーマに取り上げ、「アーバンとルーラルの対と融」という仮題のもと、多くの人に分かりやすい事例を示しつつ議論を深めている。一方懸案とされた財政的基盤については、テリトリープロジェクトについて分かりよさを掘り下げずに科研費に応募することは困難と判断し、今年度の申請は見送った。昨年度と同様に千代田区による千代田学の採択並びに総合資格学院からの協賛金は2023年度も受けられる予定であるが、この財政的基盤の改善が当研究センターの大きな課題であると認識している。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

1.1①研究所（センター）において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
1.1②上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
<p>当研究センターは学外組織と連携したプロジェクトを多く企画しており、その連携は双方にとって研究成果や知見を発信共有する場となっている。外濠市民塾プロジェクトでは、他大学、地元、行政、企業、地元の高校との交流を定期的かつ積極的に行っている。源流プロジェクトでは、小菅村余沢町の住民、東京農業大学の学生、本学の学生と連携し各種活動を展開している。「玉川府中プロジェクト」は、「日野プロジェクト」や「外濠市民塾」などこれまで当研究センターが蓄積してきたノウハウを基礎に、日野市他地元自治体、地元住民、郷土資料館、教育委員会と連携し様々な学部学科の教員の参加により、活動を行っている。</p> <p>2022年度においてこれらに関連して実施した取り組みは以下の通りである。</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>○日野の湧水、用水、水環境の調査                  【日時】2022年5月14日                  【場所】日野市内                  【テーマ】書籍発行のための現地調査                  【参加者】エコ研研究員2名、日野市職員1名、外部専門家4名</p> <p>○日野の湧水、用水、水環境の調査（学生編）                  【日時】2022年5月28日                  【場所】日野市内                  【テーマ】日野水辺研究のための現地調査                  【参加者】エコ研研究員1名、大学院生7名</p> <p>○日欧ミーティング「渋谷川魂」                  【1】シンポジウム「川のエコヒストリーとスピリチャリティ～江戸東京の都市構造と精神性～」(2022年8月11日)                  【2】まち歩き+ワークショップ「渋谷川モンスターを探る」(2022年8月1日～8月10日)                  【3】展示会+イベント「渋谷川モンスター展」(2022年8月7日～8月10日)                  【主催】法政大学（江戸東京研究センター，エコ地域デザイン研究センター），青山学院大学総合文化政策学会                  【共催】ドイツバイエルン州駐日代表部，DWIH TOKYO(ドイツハウスオブイノベーション)，ヴェルサイユ国立建築学校，emergent lab，国連大学                  【協力】國學院大學，NPO法人渋谷川ルネッサンス，NPO法人雨水まちづくりサポート，シブヤ大学，東急株式会社，東京都建設局河川部，渋谷区観光協会，筒井国際特許事務所                  【後援】渋谷区，国土交通省，イタリア大使館，ドイツ大使館，東京都，フランス大使館</p> <p>○丹波山村の予備調査                  【日時】2022年10月28日                  【場所】青梅街道丹波山                  【参加者】エコ研研究員●名、</p>
---

## 2 教育研究等環境

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

2.1①研究所（センター）として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
2022年度コンプライアンス研修受講者名簿 2023年度コンプライアンス研修受講予定者名簿	

## 3 研究活動

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 3.1 研究所（センター）の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

3.1①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等） ※2022年度に研究所（センター）として実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。
--

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

○第47回法政大学大学院まちづくり都市政策セミナー「新たな地域主義の構想に向けて」

【日時】2022年12月17日

【会場】法政大学市ヶ谷キャンパス

【主催】法政大学大学院

【共催】エコ地域デザイン研究センター、現代総有研究所

【プログラム】

基調講演：

田中優子（法政大学名誉教授）

「石牟礼道子の世界と地域の未来～生命たちの賑わいを感じ取れるか？～」(共催：法政大学エコ地域デザイン研究センター)

ポスターセッション：

学生による研究・実践発表

[コーディネーター] 杉崎和久（公共政策研究科教授）

分科会1：

「共同性の再構築～現代総有の提唱と実践」(共催：現代総有研究所)

[コーディネーター] 野口和雄（公共政策研究科兼任講師、都市プランナー）[コメンテーター] 五十嵐敬喜（法政大学名誉教授）

[パネリスト]

日置雅晴（弁護士、上智大学法科大学院非常勤講師）「門前町城端（富山県南砺市城端）における現代総有の試みと課題」

宮崎一徳（参議院事務局）・風間一毅（沼津市役所）「市民による新たな共同性を回復する試み」

分科会2：

「食が紡ぐ地域の可能性」

[コーディネーター] 谷本有美子（公共政策研究科准教授）[コメンテーター] 木村純子（経営学研究科教授，エコ地域デザイン研究センター兼任研究員）

[パネリスト]

清水まゆみ（かわさき・食と農のコミュニティ代表）「川崎の農産物をおいしく楽しく食べるコミュニティ」

久保健治（特定非営利活動法人 佐原アカデミア監事）「発酵・醸造の伝統を活かす佐原の食文化」

○朴賛弼写真展覧会 日本・韓国の伝統建築

【日時】2023年3月28日～31日

【会場】武蔵野芸能劇場

【主催】一般社団法人日本民俗建築学会・韓国国際交流財団

【後援】法政大学エコ地域デザイン研究センター 他

3.1②対外的に発表した研究成果（出版物、論文、学会発表等）

※2022年度に研究所（センター）として刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者（当研究所関係者は下線付記）、内容等）、論文（著者（当研究所関係者は下線付記）、タイトル等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者（当研究所関係者は下線付記）、内容等）の詳細を箇条書きで記入。

■著書

[EToS 叢書3] 水都としての東京とヴェネツィア

法政大学江戸東京研究センター編

監修：ローザ・カーロリ，小林ふみ子，栗生はるか，陣内秀信，高村雅彦

法政大学出版局

2022年1月

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

[EToS 叢書 4] 新・江戸東京研究の世界  
 法政大学江戸東京研究センター編  
 法政大学出版局  
 2023年1月

[EToS 報告書]  
 書名：『東京発掘プロジェクト 水辺編Ⅲ』  
 標題：東京発掘プロジェクトとは？  
 著者名：皆川典久 監修  
 発行：法政大学 江戸東京研究センター  
 発行年月：2021年3月

[EToS 報告書]  
 書名：『東京発掘プロジェクト 水辺編Ⅲ』  
 標題：東京発掘プロジェクトとは？  
 著者名：皆川典久 監修  
 発行：法政大学 江戸東京研究センター  
 発行年月：2021年3月

書名：『中央線がなかったら 見えてくる東京の古層』  
 著者名：陣内秀信（共著者）  
 発行：筑摩書房（ちくま新書）  
 発行年月：2022年1月

書名：『13歳からの大学講義 Beyond SDGs』  
 著者名：吉永明弘（著），平野井ちえ子（著），高橋五月（著），竹本研史（著），梶裕史（著），松本倫明（著），杉戸信彦（著），宮川路子（著），佐伯英子（著），藤倉良（著），長谷川直哉（著），武貞稔彦（著），小島聡（著），岡松暁子（著），湯澤規子（著），法政大学人間環境学部（編集）  
 発行：公人の友社  
 発行年月：2022年2月24日

書名：『持続可能な酪農：SDGsへの貢献』  
 著者名：木村純子・中村丁次編著  
 発行：中央法規  
 発行年月：2022年3月

書名：『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』  
 著者名：木村純子・陣内秀信編著  
 発行：白桃書房  
 発行年月：2022年3月

書名：『中神・熊野神社本殿及び拝殿調査報告書』  
 著者名：高村雅彦 監修  
 発行：昭島市教育委員会  
 発行年月：2022年3月

書名：『南イタリア都市の空間史—プーリア州のテリトリー—』  
 著者名：稲益祐太

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発行：法政大学出版局  
発行年月：2022年3月

書名：『韓屋と伝統集落』  
著者名：朴賛弼  
標題：韓国の暮らしの原風景  
発行：法政大学出版局  
発行年月：2022年3月10日

書名：『東京空間人類学一踏査現代東京形成的脈絡』  
著者名：陣内秀信  
発行：遠足文化（中国語訳）  
発行年月：2022年6月

書名：『東京都新島村における伝統的な抗火石建造物群の台風15号・19号による被害調査（調査報告書）』  
著者名：金谷匡高、邵帥、余鵬正他（新島抗火石町並み研究会）  
発行：公益信託 大成建設自然・歴史環境基金  
発行年月：2022年7月

書名：『入門テキスト建築環境・設備』  
著者名：：朴賛弼  
発行：：学芸出版社  
発行年月：2022年7月15日

書名：『トスカーナ・オルチャ溪谷のテリトリー』  
標題：都市と田園の風景を読む  
著者名：陣内秀信／植田暁／マッテオ・ダリオ・パオルッチ／樋渡彩 編著  
発行：古小鳥舎  
発行年月：2022年9月30日  
発行年月：2022年10月27日

書名：『東京水辺散歩』  
標題：水の都の地形と時の堆積をめぐる  
著者名：陣内秀信，松田法子，齋藤彰英 著  
発行：技術評論社

■ 論文（査読付き）

論文標題：Analysis of Flows through and over A Rubble Mound Weir and Classification of Flow Regime  
著者名：K. Michioku  
雑誌名：Journal of JSCE, Vol.10, [https://doi.org/10.2208/journalofjsce.10.1\\_328](https://doi.org/10.2208/journalofjsce.10.1_328), pp.328-347  
発行年月：2022年4月

論文標題：持続可能なフードシステムとSDGs  
著者名：木村純子  
雑誌名：中村丁次編著『臨床栄養』140(6)，2022年5月号，医歯薬出版，840-845

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発行年月：2022年5月

論文標題：山梨県小菅村集落における農村舞台の建築的特徴について

著者名：金谷匡高、鈴木清

雑誌名：民俗建築

発行年月：2022年5月

論文標題：The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan: Overviews and insights from Mishima Potato GI Case Study

著者名：Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille

雑誌名：Proceedings Worldwide Perspective on Geographical Indications, An International Conference for Researches, Policy Makers and Practitioners, held in Montpellier, France, 218-219.

発行年月：2022年7月5~8日

論文標題：貯水池堆砂量推定モデルの構築と気候変動に伴う堆砂速度増大率の推定－熊本県緑川ダム貯水池を対象として－

著者名：高橋大地・石川忠晴・道奥康治

雑誌名：ダム工学, Vol. 32, No. 2, pp. 141-152

発行年月：2022年9月

#### ■ 論文

論文標題：文化財政策におけるエコミュージアム的な取り組みとその課題－ウェルビーイング社会の文化享受の視点から－

著者名：馬場憲一

雑誌名：現代福祉研究 第22号

発行年月：2022年3月

論文標題：日本におけるエコミュージアム的な取り組みについて考察－東京都墨田区「小さな博物館」事業の場合－

著者名：馬場憲一

雑誌名：日本エコミュージアム研究 No. 27

発行年月：2022年3月

論文標題：テリトリーオが実現する持続可能な地域づくり

著者名：木村純子編著

雑誌名：『『イタリアのテリトリーオ戦略-甦る都市と農村の交流-』 発刊記念』講演録』法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー, No244

発行年月：2022年3月31日

論文標題：Preservation and Continuation of "Local Ecosystem": The case of Tokyo's Public Baths

著者名：Haruka Kuryu

雑誌名：STORIA URBANA

発行年月：2022年4月

論文標題：SDGs(持続可能な開発目標)

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

著者名：木村純子  
 雑誌名：『小学校理科授業実践ハンドブック』32-33，教育出版  
 発行年月：2022年4月21日

論文標題：サーモグラフィーからみる夏における温熱環境の研究-伝統民家及び現代風建物の測定-

著者名：朴賛弼  
 雑誌名：『民俗建築』第161号  
 発行年月：2022年5月

論文標題：新島抗火石の町並み-台風被害調査と島内外における抗火石建造物の保存活用に向けた取り組みについて-

著者名：金谷匡高  
 雑誌名：『民俗建築』  
 発行年月：2022年5月

論文標題：地域社会の持続可能性と酪農乳業の役割・機能

著者名：木村純子  
 雑誌名：ラウンドテーブル・シンポジウム講演録『持続可能な社会の実現に向けて酪農乳業はどのように貢献できるのか』一般社団法人Jミルク，3-5.  
 発行年月：2022年6月21日

論文標題：パンデミックを乗り越えた水都・東京

著者名：陣内秀信  
 雑誌名：三田評論 No.1269  
 発行年月：2022年8月～9月

論文標題：0Dデータの活用に向けたコロナ禍における人口動態分析

著者名：荒木祐哉，今井龍一，松島敏和  
 雑誌名：令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会  
 発行年月：2022年9月

論文標題：Wi-Fi パケットセンサを用いたデータ取得の指向性に関する一考察

著者名：李馨蕊，今井龍一，塚田義典，後藤大河  
 雑誌名：令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会  
 発行年月：2022年9月

論文標題：Wi-Fi パケットセンサを用いた静岡市中心市街地の交通流動調査

著者名：矢野有希子，今井龍一，河口知弘，堀井一嗣，亀谷浩司  
 雑誌名：令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会  
 発行年月：2022年9月

論文標題：プローブクエストの受信方向を考慮したWi-Fi パケットセンサの調査手法に関する一考察

著者名：後藤大河，今井龍一，中村健二，塚田義典，李馨蕊  
 雑誌名：令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会  
 発行年月：2022年9月

論文標題：ポリゴンメッシュを用いたプローブデータの進行方向判別手法の考案

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

著者名：金井翔哉，今井龍一，山本雄平  
 雑誌名：第 47 回土木情報学シンポジウム講演集  
 発行年月：2022 年 9 月

論文標題：水の都ヴェネツィア——誕生から水上テラスの出現まで  
 著者名：樋渡彩  
 雑誌名：『建築と社会』一般社団法人日本建築協会  
 発行年月：2022 年 10 月

論文標題：交通ビッグデータの OD を活用したコロナ禍における東京都 23 区の人口動態把握  
 著者名：今井龍一，松島敏和，荒木祐哉  
 雑誌名：第 66 回土木計画学研究発表会・講演集  
 発行年月：2022 年 11 月

論文標題：IoT デバイスを用いた静岡市中心市街地の交通流動調査  
 著者名：今井龍一，山本雄平，神谷大介，河口知弘，堀井一嗣，亀谷浩司，矢野有希子  
 雑誌名：第 66 回土木計画学研究発表会・講演集  
 発行年月：2022 年 11 月

論文標題：コロナ禍における東京 23 区の流動人口の実態分析  
 著者名：今井龍一，松島敏和，荒木祐哉  
 雑誌名：CSIS DAYS 2022 全国共同利用研究発表大会研究アブストラクト集  
 発行年月：2022 年 11 月

論文標題：人流データを用いた交通手段別 OD 量推計の試行  
 著者名：今井龍一，松島敏和，野崎琉加  
 雑誌名：CSIS DAYS 2022 全国共同利用研究発表大会研究アブストラクト集  
 発行年月：2022 年 11 月

論文標題：Wi-Fi パケットセンサによる静岡市中心市街地の交通流動調査  
 著者名：今井龍一，河口知弘，堀井一嗣，亀谷浩司，矢野有希子  
 雑誌名：CSIS DAYS 2022 全国共同利用研究発表大会研究アブストラクト集  
 発行年月：2022 年 11 月

論文標題：「テリトリー」概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から  
 著者名：木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀  
 雑誌名：『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』  
 No249, 1-13  
 発行年月：2022 年 11 月 18 日

論文表題：テリトリーの営みが生んだ景観—その再評価と継承の方法—  
 著者名：陣内秀信  
 雑誌名：飯田市歴史研究所年報 20 号  
 発行年月：2022 年 12 月 29 日

■ 学会発表

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発表標題： 銀山街道「石見路」で形成された地域構造について

発表者名： 野市将太、樋渡彩、陣内秀信

学会等名： 日本建築学会関東支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： 遠賀川流域の石炭産業で形成された地域構造の変遷について

発表者名： 太田結貴、樋渡彩、陣内秀信

学会等名： 日本建築学会関東支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： バドヴァにおけるポルティコの形状に関する歴史的考察——サン・ニコロ地区とゲットー地区を対象として

発表者名： 古庄裕喜、樋渡彩

学会等名： 日本建築学会関東支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： 島々に位置する集落構造の類型的考察について

発表者名： 河村剛志、樋渡彩

学会等名： 日本建築学会中国支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： 忠海における産業から見た地域構造について

発表者名： 田中碧衣、樋渡彩

学会等名： 日本建築学会中国支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： 太田川流域における木材産業を支えた地域構造に関する考察

発表者名： 中澤頼明、樋渡彩

学会等名： 日本建築学会中国支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： 香川における塩田の比較について

発表者名： 小野愛実、樋渡彩

学会等名： 日本建築学会中国支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

発表標題： 大崎上島の神社について

発表者名： 出口葉月、樋渡彩、吉田真子

学会等名： 日本建築学会中国支部

発表場所： オンライン

発表年月： 2022年3月

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発表標題：ポルトガルアーロにおけるアーチの形状比較に関する研究

発表者名：久安佑歩、樋渡彩

学会等名：日本建築学会中国支部

発表場所：オンライン

発表年月：2022年3月

発表標題：銀山街道「石州路」で形成された地域構造について

発表者名：樋渡彩、吉田真子

学会等名：日本建築学会北海道支部

発表場所：オンライン

発表年月：2022年6月

発表標題：古代ローマ時代の街道および都市に関する考察——ラヴェンナからアクイレイアを対象として

発表者名：中村友也、樋渡彩

学会等名：日本建築学会北海道支部

発表場所：オンライン

発表年月：2022年6月

発表標題：パドヴァにおけるポルティコの形状に関する歴史的考察——ヴェスコヴァド地区とカステッロ地区を対象として

発表者名：中澤流星、吉田真子、樋渡彩

学会等名：日本建築学会北海道支部

発表場所：オンライン

発表年月：2022年6月

発表標題：パドヴァにおけるポルティコの形状に関する歴史的考察——ピアッツェ地区を対象として

発表者名：吉田真子、樋渡彩

学会等名：日本建築学会北海道支部

発表場所：オンライン

発表年月：2022年6月

発表標題：朝鮮時代における教育施設の比較研究

発表者名：朴賛弼

学会等名：日本民俗建築学会

発表場所：京都産業大学、リモート併用

発表年月：2022年6月4日

発表標題：博物館法改正とエコミュージアム運営の方向性

発表者名：馬場憲一

学会等名：日本エコミュージアム研究会

発表場所：オンライン

発表年月：2022年7月

発表標題：兵庫県赤穂と香川県中讃の塩田に関する比較考察

発表者名：小野愛実、樋渡彩

学会等名：特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議

発表場所：和歌山・瀬戸内海研究フォーラム

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発表年月：2022年8月

発表標題：関前諸島岡村島の空間構成に関するフィールド研究

発表者名：吉田真子、樋渡彩

学会等名：特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議

発表場所：和歌山・瀬戸内海研究フォーラム

発表年月：2022年8月

発表標題：瀬戸内における歴史的な地域構造に関する研究

発表者名：樋渡彩、吉田真子、小野愛実、田中碧衣

学会等名：特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議

発表場所：和歌山・瀬戸内海研究フォーラム

発表年月：2022年8月

発表標題：ラグーナ・ヴェネタの歴史的変遷に関する研究

発表者名：樋渡彩

学会等名：日本建築学会大会（北海道）

発表場所：オンライン

発表年月：2022年9月

発表標題：16-18世紀における小都市エステの空間構造に関する研究

発表者名：吉田真子、樋渡彩

学会等名：日本建築学会大会（北海道）

発表場所：オンライン

発表年月：2022年9月

発表標題：蘇州における歴史的な住宅の種類について

発表者名：章単婕、樋渡彩

学会等名：日本建築学会大会（北海道）

発表場所：オンライン

発表年月：2022年9月

発表標題：19世紀末の生口島の空間構造について

発表者名：栗田修史、樋渡彩

学会等名：日本建築学会大会（北海道）

発表場所：オンライン

発表年月：2022年9月

発表標題：産業から見た江波の変遷に関する考察

発表者名：米村侑真、樋渡彩

学会等名：日本建築学会大会（北海道）

発表場所：オンライン

発表年月：2022年9月

発表標題：島に生きる、島に宿る

発表者名：吉田真子、樋渡彩

学会等名：日本建築学会大会（北海道）・デザイン

発表場所：オンライン

発表年月：2022年9月

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発表標題：夏における伝統民家及び現代風建物の温熱環境の研究  
 発表者名：朴賛弼  
 学会等名：日本建築学会  
 発表場所：リモート開催、  
 発表年月：2022年9月

発表標題：リブライ  
 発表者：稲益祐太  
 学会等名：都市史学会主催 書評会「稲益祐太著『南イタリア都市の空間史—プーリア州のテリトリーオ』」  
 発表場所：オンライン  
 発表年月：2022年12月 akiet.info@gmail.com

### 3.1③研究成果に対する社会的評価（招待講演、書評・論文の引用等）

研究所（センター）の活動に対して2022年度に得たと考える社会的評価（招待講演等）を記入してください。招待講演が学会発表の場合も重複してこちらに記入してください。※注

#### ■学会発表（招待講演・国際学会）

発表標題：新島抗火石の町並み-台風被害と地域内外の活動について-  
 発表者名：金谷匡高  
 学会等名：日本民俗建築学会  
 発表場所：zoom  
 発表年月：2022年1月

発表標題：Tokyo as a water city from the perspective of spatial anthropology  
 発表者名：Hidenobu Jinnai  
 学会等名：Beyond Museums (UNESCO Chair/Water Heritage and Sustainable Development)  
 発表場所：online  
 発表年月：2022年1月21日

発表標題：歴史的視点からの地域構造の可視化とその再評価——中国地方を事例として  
 発表者名：樋渡彩・歴史意匠委員会  
 学会等名：日本建築学会中国支部  
 発表場所：オンライン  
 発表年月：2022年5月

発表標題：ティポロジアとテリトリーオ  
 発表者名：陣内秀信  
 学会等名：『世界建築史15講』連続セミナー13  
 発表場所：日本大学「世界建築史15講」編集委員会  
 発表年月：2022年6月17日

発表標題：「日本西部地方地域再生事例-重要伝統的建築物群保存地区を中心に」日韓共同セミナー  
 発表者名：朴賛弼  
 学会等名：大韓建築学会、韓国忠南国立大学、長崎県立大学  
 発表場所：リモート開催  
 発表年月：2022年6月22日

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発表標題：ウォーターフロント活用の可能性とその意義

発表者名：陣内秀信

学会等名：大阪府建築士会

発表場所：大阪工業大学梅田キャンパス

発表年月：2022年7月1日

発表標題：南関東における湿地の現状と特性

発表者名：市川菜菜子・高田雅之

学会等名：日本湿地学会

発表場所：北海道釧路市

発表年月：2022年9月

発表標題：都市における社会と空間のディテール EToS が探る文理協同のアイデア

発表者名：栗生はるか、山道拓人、小林信也

学会等名：法政大学江戸東京研究センター

発表場所：法政大学

発表年月：2022年9月

発表標題：銭湯から考える「まちの継ぎ方」

発表者名：栗生はるか、守本陽一、大久保勝仁、三文字昌也他

学会等名：全国まちづくり会議 2022

発表場所：墨田区電気湯

発表年月：2022年10月

発表標題：イタリアの都市空間とその描き方—ヴェネツィアを中心に—

発表者名：陣内秀信

学会等名：鹿島美術財団東京美術講演会

発表場所：鹿島建設 KI ビル

発表年月：2022年10月13日

発表標題：「床暖房の蓄熱による雪下ろしの研究」大韓建築学会秋大会研究発表

発表者名：朴賛弼

学会等名：大韓建築学会

発表場所：済州島西帰浦市

発表年月：2022年10月26日

発表標題：武家屋敷の荒廃と牛乳搾取業の展開～明治維新による東京都市空間の変容～

発表者名：金谷匡高

学会等名：ミルク一万年の会

発表場所：大妻女子大学

発表年月：2022年11月

発表標題：銭湯からまちを考える

発表者名：栗生はるか、牧野徹

学会等名：北区文化財講演会

発表場所：北区飛鳥山博物館

発表年月：2022年11月

発表標題：渋谷、虎ノ門の都市再開発

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

発表者名：朴賛弼  
 学会等名：KODA ARP 韓国不動産開発協会、創造都市不動産融合最高位課程  
 発表場所：渋谷、虎ノ門  
 発表年月：2022年11月18日

発表標題：水都東京の空間構造—隅田川と日本橋川を中心として  
 発表者名：陣内秀信  
 学会等名：国際シンポジウム〈水辺の都市の空間構造と歴史文化の変遷〉，上海社会科学  
 学院歴史研究所  
 発表場所：オンライン  
 発表年月：2022年11月27日

発表標題：スマートシティーと地域相性発展」2022年韓日共同セミナー、総評  
 発表者名：朴賛弼  
 学会等名：大韓建築学会、韓国忠南国立大学、長崎県立大学、名古屋市立大学  
 発表場所：リモート開催  
 発表年月：2022年12月14日

■ 著作について書かれた書評

評者名：倉石美都  
 媒体名：一般社団法人日本民俗学会  
 書評掲載年月：2022年8月  
 対象著書（著者）：『韓屋と伝統集落 韓国の暮らしの原風景』（朴賛弼）

評者名：渡邊喜代美  
 媒体名：UIFA JAPAN news letter 国際女性建築家会議 日本支部  
 書評掲載年月：2022年8月25日  
 対象著書（著者）：『韓屋と伝統集落 韓国の暮らしの原風景』（朴賛弼）

評者名：大平茂男  
 媒体名：日本民俗建築学会  
 書評掲載年月：2022年11月  
 対象著書（著者）：『韓屋と伝統集落 韓国の暮らしの原風景』（朴賛弼）

評者名：山辺規子  
 媒体名：週刊読書人  
 書評掲載年月：2022年11月4日  
 対象著書（著者）：『トスカーナ・オルチャ溪谷のテリトリー——都市と田園の風景を  
 読む』（陣内秀信、植田暁、マッテオ・ダリオ・パオルッチ、樋渡彩）

■ 書評

標題：小川格著日本の近代建築ベスト50  
 著者名：朴賛弼  
 雑誌名：『民俗建築』日本民俗建築学会、第161号  
 発行年月：2022年5月

3.1④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

※2022年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。

第三者評価などの仕組みは持っていない。2022年度第4回サステナビリティ実践知研究機構会議において、同会議からの「設置研究所における外部評価の実施について」との問いかけについて、文書で「外部資金はその研究課題に直接かかわる使途にしか使用できないため、外部評価委員への謝金と研究成果の発信のためのホームページ管理費用くらは大学から支給していただきたい。」旨の意志表示お行った。

### 3.1⑤ 科研費及びその他外部資金の応募・獲得状況

※2022年度中に研究所（センター）として応募した科研費等外部資金及び2022年度中に採択を受けた科研費等外部資金について、研究担当者（代表・分担の別）、研究種目、事業名、実施年度、交付金額の詳細を箇条書きで記入。

#### 1. 2022年度中に応募した研究費 15件

##### (1) 研究代表者 4件

- ・陣内 秀信 基盤研究(A) (一般) 場所の記憶とその地図情報の活用一新・江戸東京研究による近未来東京のデザイン 総額 49,750 千円
- ・木村 純子 基盤研究(B) (一般) テリトリーオ振興による持続可能なフードシステム構築 総額 18,032 千円
- ・高村 雅彦 基盤研究(B) (一般) 20世紀東アジアにおける集団住宅地に関する研究 総額 19,720 千円
- ・馬場 憲一 基盤研究(C) (一般) 人口減少化時代の文化財保存・活用の仕組みとその政策についての研究 総額 2,890 千円

##### (2) 研究分担者 11件

- ・岡村 民夫 基盤研究(A) (一般) 場所の記憶とその地図情報の活用一新・江戸東京研究による近未来東京のデザイン
- ・福井 恒明 基盤研究(A) (一般) 場所の記憶とその地図情報の活用一新・江戸東京研究による近未来東京のデザイン
- ・高村 雅彦 基盤研究(A) (一般) 場所の記憶とその地図情報の活用一新・江戸東京研究による近未来東京のデザイン
- ・今井 龍一 基盤研究(A) (一般) 点群データと3次元モデルの時空間DXに関する研究開発
- ・今井 龍一 基盤研究(A) (一般) 多様な地理空間情報の円滑な連携・利活用に向けた次世代ジオコーディング基盤の開発
- ・松本 剣志郎 基盤研究(B) (一般) 江戸東京移行期に関する総合的研究 一時間論・空間論からのアプローチ
- ・小堀 哲夫 基盤研究(B) (一般) 観光化が進む世界遺産都市の歴史的な中心における居住性に関する研究
- ・福井 恒明 基盤研究(B) (一般) 設計競技方式を活用した都市デザインマネジメント手法の理論的・実践的研究
- ・陣内 秀信 基盤研究(B) (一般) テリトリーオ振興による持続可能なフードシステム構築
- ・増淵 敏之 基盤研究(C) (一般) 韓国国内でのコンテンツツーリズムの浸透一観光行動の現地化と再帰性一
- ・森屋 雅幸 基盤研究(C) (一般) 人口減少化時代の文化財保存・活用の仕組みとその政策についての研究

#### 2. 2022年度実施した科研費 19件

##### (1) 研究代表者9件

- ・高村 雅彦 基盤研究(B) 東アジア都市の住宅地形成と集合住宅に関する学術調査 2022 1年間で総額¥1,000,000

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- ・木村 純子 基盤研究(B)地理的表示(GI)を活用したSDGsに寄与する農業と農村振興に関する日欧比較研究 2021～2022 2年間で総額¥1,630,000
- ・道奥 康治 基盤研究(C)(基金)自然材料を利用した水工構造物の学理構築と公式化 2017～2022 6年間で総額¥4,680,000
- ・安田 節之 基盤研究(C)(基金)ベストプラクティス・アプローチに基づく心理教育プログラムの評価研究 2018～2022 5年間で総額¥1,430,000
- ・山本 真鳥 基盤研究(C)(基金)オセアニア植民地時代における非白人移住者の歴史人類学的研究 2019～2023 5年間で総額¥4,290,000
- ・川久保 俊 基盤研究(C)(基金)住環境改善がもたらす健康影響シミュレーション手法の開発 2019～2023 5年間で総額¥4,420,000
- ・今井 龍一 基盤研究(C)(基金)道路舗装の3次元モデル及び点検データを用いた道路地図の調製・更新技術の開発 2020～2023 4年間で総額¥6,153,700
- ・道奥 康治 基盤研究(C)(基金)石積み水工構造物の治水・利水・環境機能に関する総合評価 2022～2024 3年間で総額¥3,510,000
- ・岩佐 明彦 基盤研究(C)(基金)災害時居住環境におけるクロスオーバーモデルの構築 2022～2024 3年間で総額¥4,290,000

(2) 研究分担者10件

- ・岩佐 明彦 基盤研究(A)【京都大学・牧 紀男】応急仮設住宅「学」の確立 2021～2025 5年間で総額¥1,430,000
- ・川久保 俊 基盤研究(A)【千葉大学・正木 治恵】リアルタイム生活情報のAI解析による革新的高齢者ケア改善システムの確立 2021～2024 4年間で総額¥780,000
- ・木村 純子 基盤研究(B)(特設)(基金)【交付内定日：2019/7/17 明治大学・高倉成男】農業と知的財産 2019～2022 4年間で総額¥720,000
- ・森田 喬 基盤研究(B)【東京都立大学・若林 芳樹】デジタル社会における地図リテラシーの再構築 2022 1年間で総額¥364,000
- ・川久保 俊 基盤研究(B)【岡山大学・鳴海 大典】暑熱リスク軽減を目的とした対策導入シナリオの地域特性評価 2022～2025 4年間で総額¥617,500
- ・福井 恒明 基盤研究(B)【早稲田大学・佐々木 葉】地域水系基盤概念に基づいた水インフラとともにある暮らしの再生デザイン手法の開発 2022～2024 3年間で総額¥325,000
- ・福井 恒明 基盤研究(C)(基金)【多摩美術大学・湯澤幸子】70年代の大野美代子のインテリア・橋梁にみる領域横断的デザインの可能性 2021～2023 3年間で総額¥715,000
- ・木村 純子 基盤研究(C)(基金)【農林水産省農林水産政策研究所・須田 文明】食農コモン(ズ)のアントレプレナーシップ:フランスとイタリアの比較から 2022～2024 3年間で総額¥650,000
- ・陣内 秀信 基盤研究(C)(基金)【農林水産省農林水産政策研究所・須田 文明】食農コモン(ズ)のアントレプレナーシップ:フランスとイタリアの比較から 2022～2024 3年間で総額¥650,000
- ・川久保 俊 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))【横浜国立大学・鳴海大典】都市における暑熱リスク軽減を目的とした対策導入シナリオに関する国際共同研究 2018～2022 5年間で総額¥3,770,000

3 補助金

2023年度千代田学事業(千代田区)については、以下の通り申請し、採択された。  
 テーマ：橋詰空間等を活用するウォークブル滞留空間創出の検討と運営実験  
 研究代表者：高見公雄(センター長)  
 採択額：489千円

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>4 千代田区ウォークアブルなまち実証実験提案</p> <p>千代田区が募集したウォークアブルなまち実証実験提案に応募したが、採択されなかった。</p> <p>テーマ：茶仲プロジェクト</p> <p>研究代表者：神谷 博（客員研究員）</p> <p>申請額：500 千円</p>
---

※注 社会的評価に該当するその他の例として、研究所（センター）がこれまでに発行した刊行物に対する 2022 年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や 2022 年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）、掲載コンテンツダウンロード件数、表彰・受賞歴等も含む。研究所（センター）に該当するものがない場合は、研究所に所属している所員によるものを含めることも可、その場合は研究所の研究領域に関する論文や刊行物等とする。社会的評価の対象となるものが論文や刊行物等である場合、それらが公表された時期については問わない。また、実績等は把握できている範囲で記入。

### III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

	評価基準	研究活動
	中期目標	都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリーオ」を提示するとともに、その内容と意義の明確化を図る。
	年度目標	「テリトリーオ」の概念について、プロジェクトで取り上げている地域において、分かりやすい説明を提示する。
	達成指標	テリトリーオ概念の理解、普及の確認
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	分かりにくいとの指摘のある「テリトリーオ」概念について、「アーバンとルーラルの対と融（対立と融合）」という議論テーマを立ち上げ、これであれば具体的な議論ができるとのことで本格的な意見交換を開始した。
	改善策	分かりやすさへの道のりを示した段階であり、この意見交換を継続することで、目標達成に至るものと展望される。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	学術的知見をもとに、具体的な地域の近未来の姿について、地域と共に議論しその実現に向けた社会的な発信を行う。
	年度目標	COVID-19 感染対策に留意しつつ、コロナ前の水準程度まで対象地域との人的交流を回復する。
	達成指標	対象地域における対面での交流活動の実施量
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	佐原領域学、潟、多摩川流域といったプロジェクトにおいて、それぞれ地元住民や地元行政との交流を継続または復活させつつあるが、「コロナ前の水準程度」にはまだ至っていない。
	改善策	コロナの感染症法の分類変更がなされれば、プロジェクト対象地域との交流の障壁は大きく改善されるため、3 年の間に準備してきた地域における活動について運営委員会の場などを通じて積極的に後押ししていく。
【重点目標】		
テリトリーオ概念の明確化、分かりやすい伝達。そのためのプロジェクト展開地域における地域の人々の意見集約。		
【目標を達成するための施策等】		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>一目で概念が捉えられるチャートまたは図のようなものの制作と提示。</p>
<p><b>【年度目標達成状況総括】</b>                  ワクチン接種の拡大や変異株により、COVID-19 の危険性の低下が感じられ、地域との人的交流の再開が始まった。また「テリトリーオ」概念が分かりにくいとの指摘について、要は都市域と郊外（田舎）域を一体で捉えその循環や都市化進展による環境変化などを議論していくことで、その概念が明確になるのではないかと、との意見がまとめられ、これを「アーバンとルーラルの対と融」なる語としてまとめ、意見交換のテーマとして打ち上げた。これは分かりやすいとの評価を得ており、これに沿って始めた意見交換を進めることで、「目標を達成するための施策等」に示した概念図の作成に近づくものと考えている。そういった意味で、二つの分野とも年度目標に到達はしていないものの、目標達成に向けた筋道を見いだしたと評価している。</p>

#### IV 2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリーオ」を提示するとともに、その内容と意義の明確化を図る。
年度目標	「テリトリーオ」の概念について、具体的で分かりやすい説明を提示する。
達成指標	各プロジェクトにおけるテリトリーオ概念を表す表題の整備
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学術的知見をもとに、具体的な地域の近未来の姿について、地域と共に議論しその実現に向けた社会的な発信を行う。
年度目標	COVID-19 感染対策の変化を捉え、対象地域との人的交流を感染拡大前の水準まで回復する。
達成指標	対象地域における対面での交流活動の実施量
<p><b>【重点目標】</b>                  テリトリーオ概念について、プロジェクト展開地域における地域の人々の意見を集約して、多くの人に分かりやすい目標とし打ち出す。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>                  概念が容易に捉えられる語の確立。</p>	

#### 【大学評価総評】

<p>エコ地域デザイン研究センターは、学内外の研究者や専門家と連携した文理融合の研究活動や、学外組織と連携したプロジェクトによる研究成果や知見の共有などを特徴としているということで、2022 年度にも複数のプロジェクトに取り組み、多岐にわたる対外的に発表した研究成果を挙げ、外部資金の獲得やそれに向けた努力がなされていることなどは評価され、引き続きプロジェクトや研究成果及び科研費を含めて外部資金の獲得に向けての取り組みが継続されることが期待される。</p> <p>その上で、2022 年度の年度目標のうち、最も重視する目標として「テリトリーオ概念の明確化、分かりやすい伝達。そのためのプロジェクト展開地域における地域の人々の意見集約。」が挙げられ、その目標を達成するための施策等として、「一目で概念が捉えられるチャートまたは図のようなものの制作と提示。」とあったが、昨年度中は概念図の完成までには至っていないようである。ただ、昨年度末に記入された年度目標達成状況総括からは、概念図の作成にも寄与するような取り組みが進んでいるようであり、今後の進展と概念図の完成が待たれる状況にあるものと拝察される。</p>
--

#### 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2023年度自己点検・評価シートに記載された II 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状 を確認	法令要件やその他の基礎的な要 件が充足していることが確認で きた
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

---

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。